

第46回技術士全国大会(四国・徳島)を終えて



(株)和コンサルタント
菊池 昭宏
KIKUCHI Akihiro
(建設部門)

1. はじめに

第46回技術士全国大会(四国・徳島)は、徳島県徳島市内の「あわぎんホール」を主会場とし、10月5日(土)～8(火)の4日間にわたって開催された。

台風17号、18号と2週続けて四国に接近しており開催も危ぶまれたが、幸いにも好天に恵まれ、全国各地から約600名の参加者を得て、行事全般を盛況のうちに終えることができた。

以下に、主なプログラムを示す。

【10月5日(土)】

- ・関連行事(専門部会、各種会議・見学会等)
- ・ウェルカムパーティー

【10月6日(日)】

- ・分科会(4分科会)及び分科会報告
- ・大会式典・記念講演
- ・交流パーティー、パートナーズツアー

【10月7日(月)、8日(火)】

- ・テクニカルツアー A, B, Cコース
(A, Bは日帰り, Cは1泊2日)

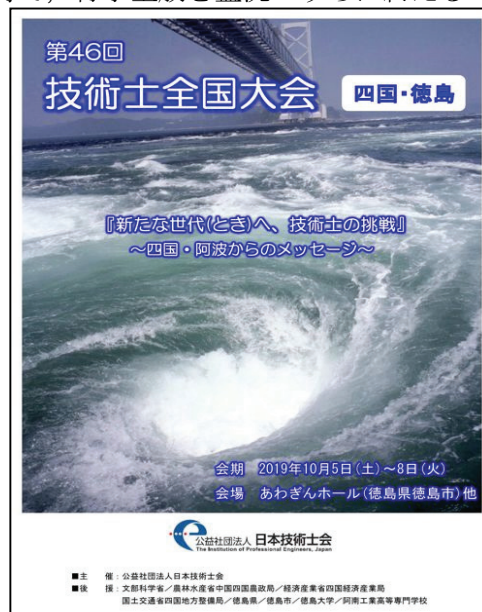


写真-1 大会記念冊子

2. 大会までの準備

全国大会が徳島で開催されることが決まったのが、3年前のことである。その年には、「第43回技術士全国大会」が”日本技術士会創立65周年記念行事”として横浜で開催される予定だったので、全国大会の雰囲気だけでも味わってみようと、徳島県技術士会会員の有志を募って視察することにした。

視察してみたものの、会場の規模や設備などに圧倒され、「これは徳島開催の参考にはならんな」というのが視察メンバーの意見であった。その後、『第44回山口大会』の視察を終えてから“実行委員会”を立ち上げ、翌年の『第45回福島大会』で徳島開催PRを行い、段々と全国大会モードに突入していった。

地方都市としての規模的には『山口大会』が参考になったが、宿泊者受入人数のキャパや全国魅力度ランキングなどが全国最下位辺りを漂っている我が徳島県にとって、大会会

場（大会式典・パーティーetc.）の選定を含め、クリアしなければならない課題が満載の船出であった。徳島県技術士会会員が主たるメンバーである『全国大会実行委員会』は都合13回開催され（大会直前には1週間に1回各班による調整会議）、徳島県技術士会理事に大会スタッフ依頼～コアメンバーによるすり合わせ～ある程度の妥協を経て、なんとか開会に漕ぎ着けることが出来た。※ただし、大会前日まで、来賓者の名簿が揃わず、また式典直前になって配席変更などの事態が生じた。

以下に、大会までの準備期間における状況を時系列で示す。



写真-2 横浜大会案内看板と会場(パシフィコ横浜)



写真-3 山口大会案内看板と会場(山口県健康づくりセンター)



写真-4 福島大会案内看板と「四国・徳島大会」のPRの様子



写真-5 全国大会実行委員会の様子



写真-6 リハーサル (あわぎんホール)



写真-7 大会初日のミーティング



写真-8 案内班による会場案内



写真-9 大学生もお手伝い



写真-10 大会式典直前での配席替え(-.-)

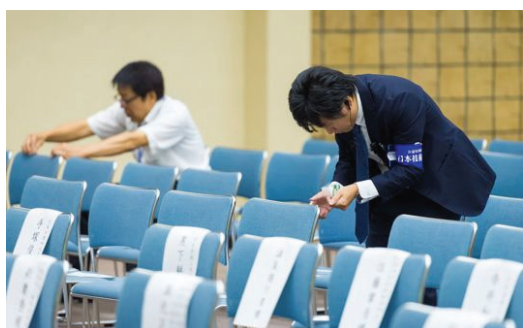


写真-11 大会式典班による配席準備

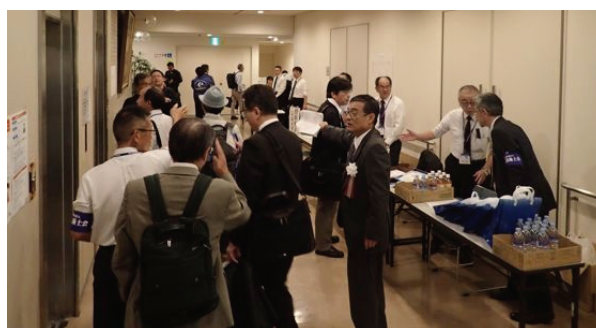


写真-12 受付&案内班による対応(∩_∩);

3. 大会のテーマ

今年5月1日に元号が“平成”から“令和”へと改元された。令和になって初めての「技術士全国大会」を四国・徳島で開催できることは、プレッシャーが掛かるが非常に光栄なことであった。

令和の時代を迎えた今、本大会のテーマを『新たな世代（とき）へ、技術士の挑戦』～四国・阿波からのメッセージ～に掲げ、新たな世代（とき）へ挑戦する技術士の役割を議論することを大会の目的として開催した。

4. 関連行事等とウェルカムパーティー

関連行事は、「全国防災連絡会議」，「男女共同参画推進連絡会議」など，10の統括本部部会の主催事業に加えて，青年技術士交流会が開催された。

ウェルカムパーティーは，本大会および関連行事参加者の懇親会として，約350人の出席により盛大に開催された。歓迎セレモニーとして，詩吟と詩舞が，アトラクションとして，有名連による「阿波踊り」が披露された後で，参加された会員の方々との乱舞が始まり，会場のボルテージが最高潮になったところで，宴が幕を閉じた。本大会に向けての活力となるパーティーとなった。



写真-13 この日のために揃えた法被



写真-14 四国本部は会場入口(外)で乾杯

5. 分科会・パネル展示

近年，国の内外で複雑で大きな課題が増えてきている。少子高齢化，エネルギー問題，地域の疲弊，頻発する自然災害，安全保障関係の変化など，どれも簡単に解決できるものではない。

このような様々な課題を克服するため，多岐にわたって専門分野を有する我々技術士の役割は大きく，また次世代を担う若手技術者の育成と女性リーダーの育成・登用が求められている。

これらを踏まえ，本大会では「新技術」，「防災」，「男女共同参画」，「青年」の4つの分科会に分かれて，これからの社会の要請に応えるべく，技術士がどのように挑戦していくのかについて議論した。大会式典後には各分科会の主査による「分科会報告」が行われ，情報共有を図った。なお，分科会は，「あわぎんホール」と「阿波観光ホテル」に

分かれて4分科会同時開催とした。

パネル展示は、徳島大学や各種企業など26団体が、その技術、製品、取り組みなどをパネルにまとめ、「あわぎんホール」2Fに展示した。



写真-15 分科会報告の様子



写真-16 パネル展示の様子

6. 大会式典および記念講演

大会式典は、来賓を含め約350名の参加者で賑わい、古野隆久大会実行委員長からの歓迎の挨拶(写真-17参照)、日本技術士会の寺井和弘会長より式辞が述べられた。

続いて、祝辞は文部科学省大臣官房文部科学戦略官、来賓挨拶は、参議院議員、徳島県知事、徳島市長、農林水産省中国四国農政局長、国土交通省四国地方整備局長の順に述べられた。この後、徳島県の女性技術士2名(花岡史恵、武間亮香)により大会宣言が高らかに読み上げられ、閉会の辞により式典が終了した。



写真-17 古野大会実行委員長による歓迎の挨拶



写真-18 大会宣言(花岡氏、武間氏)

記念講演は、『スポーツを通じた地域活性化』と題して、愛媛県出身のスポーツジャーナリストである二宮清純氏を招いて行われた。講演内容は、日本のプロ野球と米国のメジャーリーグの現状～地域活性化につながる成長戦略（マツダスタジアムの成功事例）などについて触れ、サッカーのＪリーグ発足に尽力され、二宮氏と親交の深い「川淵三郎氏」との出会い～彼から学んだこと「リーダーに必要なもの→Passion, Mission, Action+Vision」などについて、ユーモアを交えての二宮ワールドに、会場の参加者が引き込まれていた。



写真-19 二宮清純氏による記念講演の様子

7. 交流パーティー

交流パーティーは、「四国の美味しいお酒と郷土料理で歓談を楽しむ場」として、来賓・記念講演者などを含め、総勢約360名の方が参加した（写真-20 参照）。会場の壁際に設置された日本酒コーナーには四国四県の地酒が置かれ、“讃岐うどん”や“鯉のたたき”などの屋台も出され、四国の味覚を楽しんでいた。



写真-20 交流パーティーの様子

歓迎セレモニーとして、【NPO法人鳴門「第九」を歌う会】による第九が披露された後でカードが配られ、参加者全員による「第九」合唱が行われ会場が一体となった。



写真-21 『第九』の合唱



写真-22 みんなで一緒に♪

アトラクションとして、ウェルカムパーティーと同様に、有名連による「阿波踊り」が披露された後で、この日のために法被を揃えた防災支援委員会有志がお囃子に合わせて躍り込み、会場の参加者を巻き込んで阿波踊りを楽しんだところで、次回開催地の中部本部による大会PRが行われ、四国から中部へとバトンが渡り、大会は名残惜しく終了した。



写真-23 大会最後の阿波おどり



写真-24 徳島から愛知へ

8. パートナーズツアー・テクニカルツアー

10月6日8時40分出発の同伴者向けパートナーズツアー（40名参加）は、去年の紅白歌合戦で一躍有名になった「大塚国際美術館と鳴門の歴史を堪能」するコースであった。



写真-25 パートナーズツアーの様子

また、翌日のテクニカルツアーA（35名参加）は、「大歩危舟下りと“かずら橋”で有名な秘境祖谷を散策」するコース、ツアーB（18名参加）は、藍染め体験など「阿波文化を満喫」するコースであった。ツアーC（14名参加）は、初日に徳島の歴史・文化に触れ、翌日に「秘境祖谷」を満喫する1泊2日コースであった。



写真-26 テクニカルツアーの様子

9. おわりに

2年前に大会実行委員会を立ち上げ、山口大会、福島大会を視察するなどして準備を重ねてきた。（冒頭で説明）

今回の全国大会開催に当たって、四国本部実行委員会関係者はもとより、地元開催として行事支援等に協力していただいた徳島県スタッフはじめ様々な形で支援・協力していただいた全ての方々並びに、全国から参加いただいた技術士の皆さまに心より感謝を申し上げます。

—以上—